

戸時代のお姫様が乗ったカゴなどカテゴリーは幅広く、デザイン的に統一感をもたせるのは難しい。そこで、バスの看板は小レストコーナーの壁面に、ベネチアの仮面は大きなレストコーナーにガラスの棚を作り展示した。広いフリースペースの床面に置いたお姫様のカゴも非日常的な空間演出に一役買った。「バラバラのアイテムをどうデザインに馴染ませるかが課題でしたが、コーナーごとにふりかけることで、全体として「ミュージアム」という統一したコンセプトも打ち出すことができました」

佐藤善幸さんは、田村設計で建築デザイナーの仕事始めて7年目。思い出深い仕事は？と聞くと、入社して間もなく担当した中規模店舗を挙げた。「新規出店でしたが、若い施主さんは建材一つひとつの単価も気にする方でした。最初はイヤだなあと思いましたが笑、ちゃんとした理由があったのです」。このオーナーは、オープン後は来店客にできるだけ出玉還元をしたいので、インシャルコストを極力切り詰めたいと考えていた。決して多くはない予算の中で、佐藤さんは試行錯誤を重ねた。「ものすごいプレッシャーでしたが、設計が終わり、そのオーナーと一緒に建築中の骨組みに上って見た空の青さが忘れられません」

繁盛が期待できるホールの条件

安藤三朗 設備部長



安藤部長の仕事は、ホールに導入する設備機器の総合プロデューサー。空調、照明、建築資材などにし豊富な製品知識と提案経験をもつプロフェッショナルだ。例えば、空気環境に関する設備では、「装置自体がシンプルでメンテナンスが容易であるべき」という明快な哲学をもっている。提案するのは、一般的なエアコンディショナーだが、毎日一定の時間がくると自動的にフィルターを清掃する機能が付いているもの。「すぐホコリが溜まり、スタッフの手をわずらわせるようでは、負担がかかってしまいますから」。効率良く換気をするために、ホールの設計時点から、空気の流れが自然な通り道ができるように考えるべきというも持論だ。

「ランニングコストも含め、施主であるホール様の企業経営にプラスになるかどうかを総合的に勘案してご提案するのが私の仕事です」LED照明や省エネ効果の高い空調設備、デマンドコントローラーなどを導入し、電力の削減を提案するのはその一例だ。

「インシャルコストが若干高くても、長期的な視点で最も企業経営に寄与するにはどうすれば良いかを考えることが大事ですね」コストの削減は、繁盛店の条件の一つである「出玉サービス」ができるという余裕を生む。デザインが優れ、快適さを備えているだけでなく、オープン後の盛況感も期待できるホールを提案できるのは、安藤部長のような設備の専門家がいる田村設計ならではの強みだ。

DATA
株式会社田村設計
本社 名古屋市中区大須1-21-9 DIX4ビル TEL.052-203-0678
東京事務所 東京都台東区東上野3-15-12 野本ビル10F TEL.03-3839-6112
www.tamra-ar.com



田中淳子さん



お客様がデザイン的にものすごくレベルが高い物を求めている（笑）。最終的には満足してもらうことが大事だと考えています

羽田野哲也さん



ホールデザインは、意匠性が高いのが特徴。いろいろな人が使う施設なので使い勝手（機能）も考えることが大事ということがわかってきました



田村設計の社風を一言で表現するならば「自由」。20代半ばから30代前半のスタッフが多く、みな若いですが、プランニングから竣工までの課程で、施主との打ち合わせ、設計・デザイン、現場での施工業者とのやりとりなど、基本的にすべて一任される。大枠として社の方針が示されることはあっても、実務レベルで上司や先輩が自分の考えを押しつけることはない。年齢や男女の別に関係なく、自分の能力をいかんなく発揮できるという意味で自由な社風なのだ。

自由な分、もちろん責任は重い。追いつきの時期になれば、連日夜12時過ぎまで仕事をし、翌日は早朝から遠方の建設現場に駆けつけることも珍しくない。言うまでもなくパチンコ店の建設は、億単位のコストがかかる大きな仕事。若いデザイナーならば、その重責に押しつぶされそうになることもあるはずだ。

田村設計が1年間に受注するホール物件は新規・リニューアルともに相当数に上る。この業績を支えているのは、社員一人ひとりの人知れず努力するひたむきさ、仕事に対するバランス感覚、そして何よりもホール建築にかける情熱に違いない。



名古屋本社の若手スタッフ

REPORT 2 心に残るデザインを

株式会社 田村設計

●名古屋本社/羽田野哲也さん（チーフアーキテクト）・田中淳子さん（チーフインテリアデザイナー）
●東京事務所/佐藤善幸さん（チーフアーキテクト）・有馬尚さん（チーフアーキテクト）



有馬尚さん

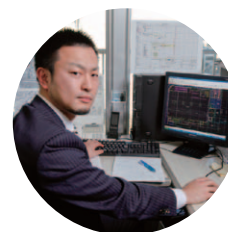


住宅など他のジャンルに比べ、ホールデザインは規模やコストでも自由度が高く、腕のふるい甲斐があります。入社7年目で佐藤とは同期です

昨年10月末、埼玉県にオープンしたアスカ羽生店は、建築デザイナーの有馬尚さんが手がけた（詳細は次の見開き頁を参照）。木立に囲まれた郊外型店舗の敷地は約1000坪と広大。720坪のホール部分に飲食店とリサイクルショップを加えた複合店舗で、それぞれの施設から広い中庭が見渡せる。コンセプトは「緑の中にある小さな町」。ボックス型の建物の外壁は緑を基調に、白色LED照明を大胆に使った光のグラデーションが印象的だ。

「自然の緑の中に緑色の建物なので、現場の施工関係の人たちには『何でこんなに目立たないデザインや色なの？』と言われたことも（笑）。でも、赤やイエローなどビッドな色を使う、きらびやかな手法とは違いますが、ホールの存在感をしっかりと

佐藤善幸さん



クライアントの希望をしっかりと聞くこともこだわりの一つ。具体的なたたき台をこちらが提示した上で、細部にわたって詰めていきます



と示すことができたと思っています」田村設計が手がけたホールは、洗練されたシンプルさの中に個性を主張するデザインが多い。高さのたつぷりとある天井、コーナーごとのコンセプトに基づいたデザインワークや色づかい、店名を記した背の高いシンボルタワー……。シンプルさはコストの削減に結びつくが、それだけでは「心に残る遊技空間」としての印象づけができない。「また来たい」という気持ちになるような工夫を必ず施すことが同社の物件の特長でもある。

インテリアデザイナーの田中淳子さんが受け持ったある新規店舗では、施主が趣味で蒐集したコレクションを、インテリアとして取り入れて欲しいという要望があった。昔のバスの広告として使われていたブリキ製の看板、ベネチア製の仮面、江

アミューズメントジャパン

別冊

PLUS1

2

FEBRUARY

FREE PAPER 無料

©2011 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing / Amusement Press Japan
planning & production / Amusement Promotion
/ Up Grade printing / Four Plus One
本紙記事の無断転載を禁じます。

APJ
Amusement Press Japan

ホールデザインの

匠

TAKUMI

「お客様の望み、叶えたい」株式会社 **ZERO**

株式会社 **田村設計** 「心に残るデザインを」

ECOホール最新事情 (マルハン昭島店・入間店)
WING金場店

≫ホールデザイン 建築・設計会社INDEX
≫速報! 2010年度出店傾向